

◆ 新収蔵資料紹介(令和5年度5月)展示解説シート ◆

にしはらりゅう う

西原柳雨関連資料

こせんりゅう  
～原稿や校正からたどる古川柳研究家の歩み～

会期:令和5年5月2日(火)～30日(火)

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー



柳雨が手掛けた原稿・校正綴り

「西原柳雨関連資料」は、<sup>にしはらりゅう</sup> 庄島町出身で、日本三大古川柳研究家の一人である西原柳雨(1865～1930)が所有したものです。令和4年12月28日付けで本市が寄贈を受けました。大正時代から昭和時代初期に柳雨が手掛けた川柳関連書籍の原稿・校正綴り、研究資料として収集したとみられる、江戸時代後期から明治時代にかけての写本や版本などがあります。その中から、今回は原稿と校正綴りを紹介します。資料からは、柳雨自身の研究に基づいた川柳句・語句の解説や、書籍刊行までの<sup>すいこう</sup> 推敲の過程を見ることができます。

●<sup>せんりゅうなんく</sup> 川柳難句類解 大正時代

柳雨が自らの研究によって収集した、江戸時代後期の川柳約1,000句について、その内容を解説したものです。後世の研究につながるよう、一部の句については出典元が記載されています。しかし、<sup>しゅんげん</sup> 出典元を明らかにする研究は容易ではなかったようで、柳雨は序文に、“1,000句のうち780句は詳細がわからず残念である”と記しています。

●<sup>せんりゅうえどかぶき</sup> 川柳江戸歌舞伎 校正刷 上 大正時代

本編18章、附録5章、挿絵10図から構成される一冊を、校正段階では上下の二冊に分けています。内容は、江戸時代の歌舞伎や人形芝居に関する古川柳約4,000句の解説で、各句にはその句が詠まれた年代が併記されています。また、詠まれた内容をもとに、演目、役者名、業界用語などのジャンルに分けて紹介されています。

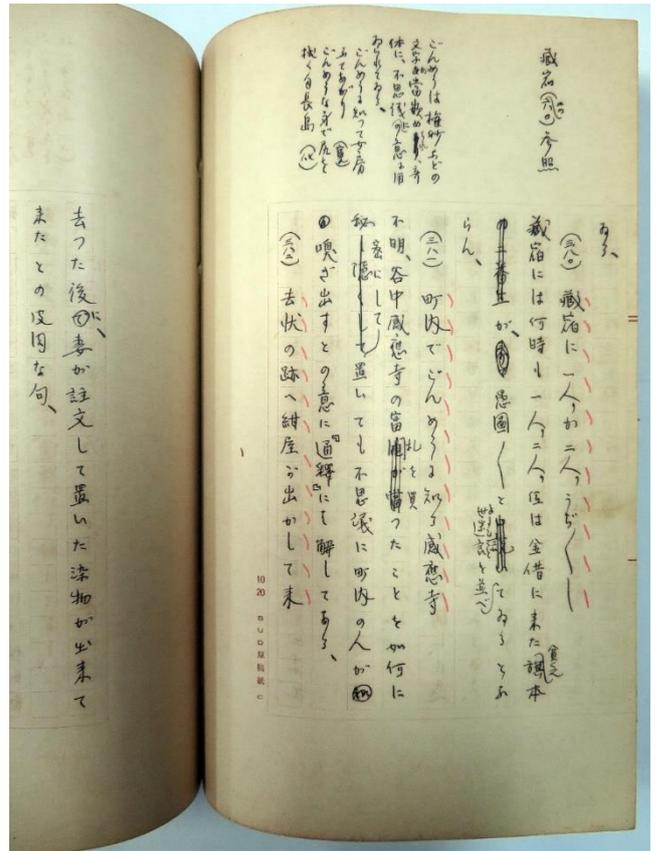
●川柳江戸歌舞伎 校正刷 下 大正時代

本編14章以降の校正刷です。誤字の修正や、反映されていない文字を追記する指示が、赤ペンで書きこまれています。冊子の前半には「要三校」と朱書きされたページがあり、この校正が2回目のものであることがわかります。あとがきは、柳雨と同じく三大古川柳研究家の一人である岡田<sup>さんめんし</sup> 三面子が担当しました。

●<sup>はいふうやなぎだるこうぎ</sup>誹風柳樽講義 二篇 第一稿 昭和初期

川柳の句ごとに内容を説明した解説書の原稿です。ページによっては頭注(上欄に書かれた注)があり、語句の説明が追記されています。当初、初篇と二篇を1冊にして刊行する構想でまとめられましたが、刊行計画は変更となります。昭和5年(1930)に初篇のみが、この第一稿の内容も盛り込みつつ『誹風柳多留講義 初篇』(岩波書店)として発行されました。

(右)誹風柳樽講義 二篇 第一稿 展示箇所(部分)



●久留米市内の西原柳雨ゆかりの地

①「西原柳雨句碑」

三本松公園(日吉町)内



②西原柳雨生誕地碑

ムーンスター体育館(荘島町)南東側

